

帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

Teikyo School of Public Health

2027年度版

BE A CHANGE AGENT

公衆衛生で、社会を動かす人へ

MPH

Evidence-based Approaches to Public Health	Public Health & Health Care Systems
Planning & Management to Promote Health	Policy in Public Health
Leadership	Communication
Interprofessional Practice	Systems Thinking

CHANGE AGENT

DrPH

Data & Analysis
Leadership, Management & Governance
Policy & Programs
Education & Workforce Development

FIVE CORE AREAS OF PUBLIC HEALTH

Epidemiology

Biostatistics

Occupational Health and Environmental

Health Policy and Management

Social and Behavioral Sciences

専門職学位課程
MPH

博士後期課程
DrPH



TEIKYO

研究科長からのメッセージ

Message from the Dean

Marketing Public Health

これからも公衆衛生大学院 (SPH) のフロントランナーとして



帝京大学大学院公衆衛生学研究科 (帝京SPH) は、2011年4月に設置され、専門職学位課程を開講しました。Master of Public Health (MPH) に加えて、2014年4月には Doctor of Public Health (DrPH) を取得できる博士後期課程も開講しました。わが国初の独立専攻の公衆衛生大学院 (SPH) として設立された帝京SPHは、約15年間、日本のSPHのフロントランナーとして走り続けてきました。2026年度は在学学生67名を数えるまでになりました。修了生は MPH288名、DrPH35名を超え、国内外の公衆衛生の現場で活躍しています。

帝京SPHの特長は、『基本5領域』、『コンピテンシー基盤型教育』、『問題解決型アプローチ』、『Change Agent』の言葉に代表されます。詳しくは、本冊子に記載しています。また、海外講師によるハーバード特別講義や国際サマースクール、帝京大学産業環境保健学センター (T-COEH) と協働した産業保健や地域保健の履修証明プログラム、社会医学系専門医プログラムなど、スピノフの教育プログラムも充実しています。さらに、さまざまなバックグラウンドを持つ学生による“ダイバーシティ”や修了後の“ネットワーク”も大きな魅力です。

私たち帝京SPHの大事な役割は、“Marketing Public Health”、すなわち、公衆衛生を売り込み、広めることです。具体的には、公衆衛生に関する知識と行動、政策、研究、専門職の育成、そして、育成した専門職の活躍の場を広げていくことです (Marketing Public Health “Behaviors”, “Policies”, “Researches”, “Education”

and “Professionals”)。これは私が研究科長になった7年前から変わらぬ思いです。

Beyond the Crisis, Change and Challenge for Future

COVID-19という大きな公衆衛生の危機の後も、度重なる自然災害や世界各地で起こっている紛争は、人々の命と健康と生活を脅かし続けています。また、世界中で進む高齢化、生成AIの急速な進歩と普及などは、私たちの社会と生活に大きな変革をもたらしています。それに伴い、私たち公衆衛生にも大きな変化が求められています。

帝京SPHでは、2023年度には MPH、2024年度には DrPH のカリキュラムの大きな改変を行いました。2015年に行ったコンピテンシー基盤型教育と問題解決型アプローチの導入に続く第2回目の大きな改変です。大学院設置時から数えると第3版となりますので、“カリキュラム 3.0”と呼んでいます。カリキュラム 3.0は、現場での実践的な応用実習、コミュニケーション、リーダーシップ、データサイエンスなどを強化しました。また、米国等のSPHのスタンダード教育に準じたものです。変革の時代に求められる人材育成のための、そして、世界標準の公衆衛生教育カリキュラムを掲げ、帝京SPHは公衆衛生教育のフロントランナーとして走り続けます。

帝京大学大学院公衆衛生学研究科
研究科長 福田吉治

2027年度 入試情報

専門職学位課程 (MPH) (入学定員) 1年コース5名・2年コース25名
博士後期課程 (DrPH) (入学定員) 6名

	出願期間	選考試験日 (面接)	CASEC*	合格発表日	入学手続き期間
第1回	8月24日(月)～ 9月3日(木)	9月10日(木) 9月15日(火)	なし	9月29日(火)	10月13日(火)
第2回	10月13日(火)～ 10月22日(木)	11月5日(木) 11月10日(火)	11月5日(木)	11月20日(金)	12月1日(火)
第3回	11月24日(火)～ 12月9日(水)	12月17日(木) 12月22日(火)	なし	1月15日(金)	1月22日(金)
第4回	2月8日(月)～ 2月17日(水)	2月25日(木) 3月2日(火)	2月25日(木)	3月11日(木)	3月17日(水)

※2022年4月1日以降に受験したTOEFL iBT、IELTS Academic module、TOEIC® Listening & Reading 公開テストの成績証明書のコピーをご提出ください。なお、基準点はありません。いずれの提出ができない場合のみ、オンラインの英語試験CASECを本学にて自費で受けていただきます。

ウェブ説明会もあります。詳しくは帝京SPHオリジナルサイトをご確認ください。入学定員に達した場合、以降の入試を行わない場合があります。

※入試日程については、大学ウェブサイトを必ずご確認ください。

● 研究科説明会 2026年12月5日(土)

詳しくは

帝京SPH

検索



帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

すべては人々の健康を守るために

帝京SPHは専門職大学院として、指導的立場で活躍し、科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人の養成をミッションに掲げています。それは社会と人々の健康を守るという公衆衛生そのものの目的を達成するためです。

■ まずは社会を見よ 人々の生命と生活を守るために

帝京SPHでは教育を通じて質の高い専門職を輩出することで、人々が健康で安全に生きられる社会づくりを目指しています。そのためには、まず社会を眺め、人々の声を聴くことを大事にしています。一人一人が感じた課題を発見して、それに取り組もうという意志と姿勢を持ち、社会で困難を抱える人々に共感する人であってほしいと願っています。

今までに私たちは経験したことのない社会に生きています。それは世界でも高齢化が進み、感染症と共に非感染性疾病が世界の多くの人の主要な疾病になるなど、疾病構造が変化しています。技術革新が進む中で医療も進化していますが、医療が高度になれば医療費も高騰します。他方、貧困により必要な医療が受けられない人もいます。こうした変化は既存の保健医療システム自体に影響を及ぼしており、今、こうした課題に立ち向かうことが公衆衛生に求められているのです。

あなたは人々の健康を守るために何をしますか？
そのために、あなたが変えたいと願う課題は何ですか？



国際的に通用するMPH・DrPHを目指して —真のグローバルスタンダード—

帝京SPHでは2011年の設立当初より、国際的水準である基本5領域と体系的な学びを実現させてきました。しかし現在、世界では激変する社会情勢と、複雑で解決困難な問題が人々の健康を阻んでいます。そのため、社会を見据えた総合的な力を持つ保健医療専門職を育成する方向に世界でも教育改革が行われています。公衆衛生の専門職も例外ではありません。

転換期にある世界の公衆衛生教育。公衆衛生に強みを持つ日本だからこそ、国際的に通用する人材を育成したい。そこで、帝京SPHは日本で初めてMPH・DrPH教育にコンピテンシー基盤型教育を導入するなど、常に国際的に通用する公衆衛生専門職教育に努めてきました。新しいカリキュラム開発などの先進的な取り組みを進め、日本でのSPH教育をリードしています。

国際的通用性ということ、日本国外に出て活躍することを考えがちです。しかし、国内の地域で取り組む仕事を国際的に発信できる力。世界の人々の生きる知恵になるような日本での成果を広めること。それらも国際的に通用するMPHやDrPH取得者の仕事であるとわたしたちは考えています。



公衆衛生系専門職大学院認証評価

専門職大学院は、当該専門職大学院の質の向上を図ることと適合認定を通して質を社会に対して広く保証することを目的に、文部科学大臣からの認証を受けた認証評価機関による認証評価を5年以内ごとに受けることが義務づけられています。帝京SPHは、公益財団法人大学基準協会による公衆衛生系専門職大学院認証評価の結果、公衆衛生系専門職大学院基準に適合していると認定されています。

帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

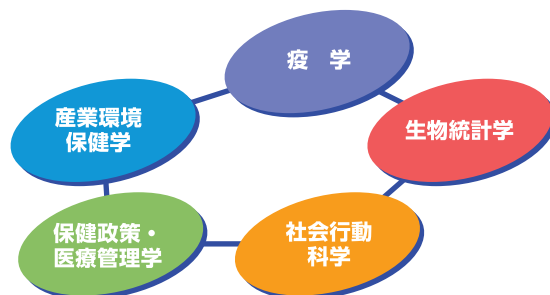
帝京SPHの教育を語る3つのキーワード

■ 基本5領域・問題解決型アプローチ・コンピテンシー基盤型教育

帝京SPHの教育を語るにはこの3つのキーワードが不可欠です。特徴ある教育を通じて、深く追求する力と幅広い公衆衛生を体系的に学ぶよう、柔軟な実践力を養っています。

(1) 公衆衛生の基本5領域

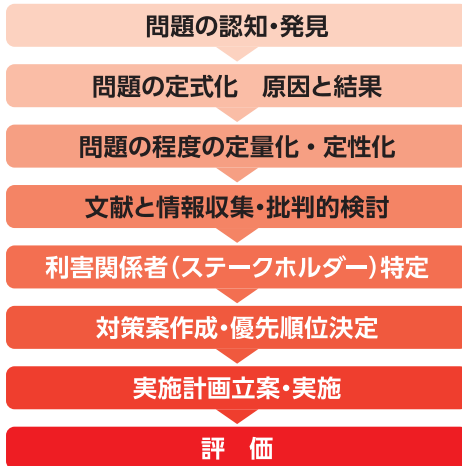
公衆衛生を体系的に学ぶには、国際的に「疫学、生物統計学、産業環境保健学、社会行動科学、保健政策・医療管理学」の5領域が基幹になっています。帝京SPHでは各領域の講義を必修にしています。さらに選択科目を多く設け、基礎的な学びから発展的な探求に対応できるようにしています。



(2) 問題解決型アプローチ

公衆衛生の課題を解決するには、1つのテーマだけに興味を持って、仮説を立ててデータを科学的に分析し、結果を論文などで発表するだけでは足りません。社会問題を取り上げて分析した後、その結果をもとに政策やプロジェクトを企画立案し、実施につなげるよう交渉することが求められます。問題を解決する方法を身につけるために、帝京SPHでは右図の8段階から成る問題解決型アプローチの習得を目指して教育しています。問題を発見して情報を収集し、得たデータを分析するだけではなく、そこで得られた知見に基づき、いかにして問題を解決していくのか、あらゆる方法を考えます。そのときにはステークホルダー分析や医療経済分析が欠かせないこともあります。多角的な側面から問題をとらえ、柔軟な発想で問題解決を考え、そしてそれを評価する能力を身につけていきます。

科学的根拠のその先へ



(3) コンピテンシー基盤型教育

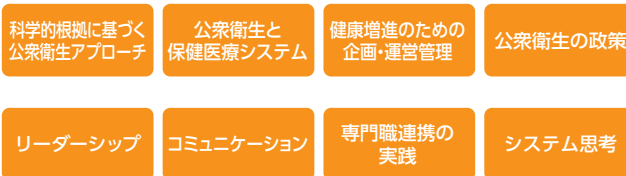
社会を変える人 (Change Agent) を育てる。それは公衆衛生の分野でも、広く私たち社会全体でも求められています。日本でも世界でも、人々の健康を守り維持するためには多くの課題があります。健康にかかわる人も医療従事者だけではなく、ときには行政、住民、民間企業、NGO、政治家などを巻き込んだ問題解決も必要であり、多くの人々と対話してより健康的な社会にする方策を議論する必要もあります。こうなると科学的知識や学術的素養だけでは公衆衛生の専門家育成はできません。そこにはコミュニケーション能力や、リーダーシップ、社会を動かす力 (アドボカシー) も必要でしょう。

保健医療の課題を解決するために、ときには法律や政策を変える必要があるかもしれません。なんらかの健康にかかわるプログラムを企画しなくてはならないこともあるでしょう。現在の価値観が多様化する中で、多くの人になるべく個人の自由を奪わずに健康的な行動を選んでもらう方法はあるのでしょうか。

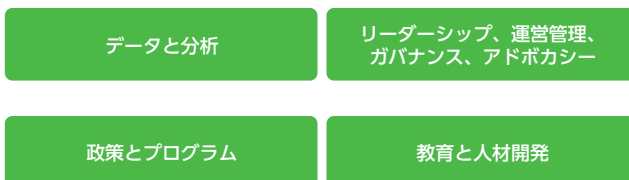
社会を変えよう人材育成。そこで注目されているのが、コンピテンシー (すなわち、高い能力を持つ人が備えている資質) を鍛える教育です。

MPHとDrPHのコンピテンシー

MPH



DrPH



帝京SPHの教育

Education at Teikyo SPH

Change Agent 導き、動かす人であれ

専門職大学院として帝京SPHが大事にするのは、自ら問題を見出し、そして解決しようという主体性です。帝京SPHではMPHとDrPHにふさわしい5領域の体系的な学び、問題解決型アプローチ、コンピテンシー取得を支えるために、教育にも工夫をしています。

講義だけではない「実務で活かせる」学び

各授業では、講義を受けて試験を受けるだけではなく、小グループでの作業や課題、ディスカッションを通じた議論、ケースに基づく検討など多様な教育手法で授業を構成しています。実習や演習、インターンシップといった科目を通じて、フィールドでの実践的な学びに取り組むことができます。ひとつのテーマを深く追求する力と、公衆衛生の基本5領域をはじめとして分野横断的な側面を知る姿勢。深く掘り下げる「縦の力」と幅広い素養を併せ持った「横に広がる力」は両方とも重要です。公衆衛生における高度専門職育成にはこうしたいわゆるT字型の人材を育成することが重要です。それが、TeikyoのT。帝京SPHが目指すT字型の専門職です。



あなたの道は続くから 在学中もその後も、あなたを励ます仲間たち

大学院生どうしのつながり バックグラウンドも多種多様

毎年、多様なバックグラウンドの学生が入学しています。医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、管理栄養士などの保健医療従事者と共に、法律や経済、行政、マーケティング、国際開発、環境など、異なる専門や経験を持つ同期生がいます。様々な経験を積んだ大学院生にとっては、同じ課題も別の視点から眺めていることがあり、多様な視野の持ち主である学生どうしの交流そのものにも意味があります。そしてこれまでの自分の仕事だけでは知りえなかった多様な仲間がかけがえのないものです。

学生は授業での課題や試験を乗り越えるため、自主勉強会などを行い、切磋琢磨しています。中には働きながら学ぶ人、育児や介護をしながら学ぶ人もいます。多忙な学生生活を共に過ごして培った大学院生どうしのつながりも帝京SPHの成果です。

同窓会

2013年に帝京SPH同窓会が発足しました。年に数回の同窓会とキャリアに関する座談会を行っています。各種同窓会イベントやホームページ・SNSを通じて、MPH・DrPH取得者にできることを実践し、修了後も大学院を支えてくれる頼もしい存在です。帝京SPHでは在学中に共に学んだ同期生はもちろん、多くの修了生ともつながる場があります。これからも増えゆく修了生。修了後も「公衆衛生」を軸に一生涯つながりつづける仲間との出会い。こうした結びつきの強さも帝京SPHの魅力のひとつです。

修了生の進路

国家公務員、地方公務員、臨床系（病院や診療所）、産業保健（産業医・産業保健師）、民間企業（製薬企業、化学品・医薬品企業など）、国際保健（JICA、NPO/NGO）、教育・研究（大学教員、研究員）、進学（博士課程、海外留学）など

同窓生のことば

専門職学位課程公衆衛生学専攻修了生

瀧川 美和さん

病院薬剤師として充実した日々を過ごしていた私が帝京SPHの門を叩いたのは、自分は病院内にある医療の一部分しか見ておらず、視野の狭い人間になっているのでは？という不安が芽生えたからでした。少し立ち止まって見聞を広めたいと考え、病院薬剤師として納得できるまで仕事ができたと考えたタイミングで、思い切って大学院への進学を決めました。具体的に解決したい課題があったわけではなく、本で読んだ「公衆衛生は医療従事者の一般教養」という言葉と、帝京の特色である、「医療職ではない人達と学ぶ環境」に惹かれました。

入学後、先生や同級生たちの経験や考えを聞き、自分の視野や興味が広がったことに気づきました。特に帝京SPHでは、公衆衛生の基本5領域を学ぶため、今まで学ぶ機会の無かった科目を履修します。様々な科目で自分の考えを同級生とディスカッションすることで、その分野をより知りたと思うだけでなく、一見別々の学問が分野を超えて関係しており、公衆衛生に必要な知識として繋がっていることを学びました。また、これらの学びを通じて、物事を俯瞰してとらえ自身で解釈できる力がついたと感じます。

卒業した現在では、ロジカルに考え、様々なステークホルダーと関係を構築していく保健事業に興味をひかれ、データヘルス関連会社に就職しました。病院薬剤師をしていたころでは想像もしなかった“今”ですが、学んだ知見と薬剤師スキルを活かせるよう日々奮闘しています。

少しアップデートした自分に出会える、様々な体験・学びのチャンスが帝京SPHにはあります。



公衆衛生 基本5領域

Five Core Areas in Public Health

公衆衛生を体系的に学ぶ

帝京 SPH では、公衆衛生の基本 5 領域にその道の専門家を配置すると共に、外部の実務家や他大学の専門家を客員教員や非常勤講師とし、協働で指導にあたっています。MPH には約 40 科目、DrPH には約 50 科目あります。

疫学

SPHの教育の目的は人々の集団の健康問題を解決する能力を育成することで、問題解決が成功するためには勘や経験ではなく科学的方法に立った研究が必要です。そこでまず解決すべき問題は何かを考え、次にその問題の原因を解明してどこに介入すべきなのかを確認します。言い換えると、仮説をたて、それを検証するための研究デザイン、データの収集と解釈を理論的かつ実践的に行うのが問題解決のプロセスで、その方法論を学ぶのが疫学です。

科目 MPH 基礎疫学、臨床疫学、質的研究、スタディリテイク、リスク科学
DrPH 臨床疫学特論、応用疫学、ハーバード特別講義（疫学）、等

生物統計学

わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足しており、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師・看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できていないとも言えます。また統計以外の研究者が観察研究などで得られたデータの解析を行う場合、解析法の選択や多変量解析結果の解釈が困難な状況に直面することが多いものです。本領域では、統計学の基本から専門的な統計手法を駆使し、試験計画を立案して結果を科学的に解析・評価できる知識と技術を、演習を踏まえて習得していきます。

科目 MPH 基礎生物統計学、応用生物統計学、データ解析演習、臨床試験概論、社会調査データ解析概論
DrPH 応用生物統計学特論、臨床試験特論、データ操作演習、ハーバード特別講義（生物統計学）、等

社会行動科学

私たちの健康や行動は、さまざまな社会・経済・文化・環境的要因の影響を受けています。そのような健康の社会的決定要因とメカニズムを理解するために社会行動科学の基本的な知識を身につけるとともに、多様な個人や集団に、適切な公衆衛生情報を伝え、その理解と行動を効果的に促すヘルスコミュニケーションの方略を学びます。あわせて、関係者とビジョンを共有し、チームで協働できる人材の育成を目指します。

科目 MPH 健康行動科学概論、健康教育学、社会疫学、ヘルスコミュニケーション学
DrPH 応用健康行動理論、ヘルスコミュニケーション学特論、ハーバード特別講義（社会行動科学）、等

産業環境保健学

私たちは様々な環境に囲まれて生活しています。その環境が人間に及ぼす影響をとらえるのが産業環境保健領域です。働くときの環境というのも公衆衛生では長い研究と活動の歴史があります。有害物質を扱う職場や職場の安全の課題。それ以外にも技術革新と産業構造の変化に伴う作業形態や雇用の多様化、心理的ストレスなど扱う課題が増えており、調査研究と共に産業保健の現場で活かせる実務能力を養います。

科目 MPH 産業環境保健学概論、産業保健学、環境保健学、産業看護マネジメント論、産業精神保健学演習
DrPH 産業保健学特論、化学物質管理学特論、環境保健学特論、ハーバード特別講義（産業環境保健学）、等

保健政策・医療管理学

本領域では将来の保健政策・医療管理のリーダーを養成することを目的としています。国際競争・公衆衛生上の脅威・高齢化社会に直面する現在では、本領域の専門家は大いに求められる人材です。高度専門家としては科学的根拠に基づいて公衆衛生に関する意思決定を、自信をもって下す能力が必要です。本領域では保健政策・医療管理を網羅的に学ぶことができます。

科目 MPH 保健政策・医療管理学概論、医療経済学、地域保健学、国際保健学概論、国際母子保健学、ヘルスデータ分析入門
DrPH 地域医療政策学特論、応用医療経済学、国際保健政策学特論、Universal Health Coverage & Aging Society、ハーバード特別講義（保健政策・医療管理学）、等

共通科目

各領域の理解と公衆衛生の分野横断的な学びに役立つ科目を開講しています。4月の集中講義で行う調査・研究法概論では、短期間で研究の素養を一通り学び、その後の特殊研究や課題研究に活かしています。

科目 MPH 公衆衛生倫理学、医学基礎・臨床医学入門、調査・研究法概論、健康医療情報学、応用実習、公衆衛生政策学、論文の書き方セミナー、MPH セミナー、課題研究
DrPH リーダーシップ論、公衆衛生教育学、問題解決型アプローチ実践法、集団健康管理学、等

専任教員

Faculty members

(●●●●● 担当 領域)

石川 ひろの 教授 ●● (ヘルスコミュニケーション学・行動科学)

医療・公衆衛生における様々なコミュニケーションの理論と方略を学び、個人や集団を健康に向けて動かすより効果的なアプローチを考えてみませんか。

井上 まり子 教授 ●● (社会疫学・国際保健学)

人々の健康を守る MPH と DrPH の力をもっと社会に。私は、雇用と健康に関する調査を基に社会に合った制度を考え、公衆衛生に取り組んでいます。あなたはどんな課題を解決しますか？

大脇 和浩 教授 ● (疫学・臨床疫学)

疫学という学問を通じて、保健医療の現場における様々な疑問に対する答え・問題に対する解決策と一緒に考えていきたいと思っています。

口羽 文 教授 ● (生物統計学)

データを情報にそして実践へ、のプロセスの基盤となる量的方法論の開発、応用に取り組んでいます。環境や社会の変化から刺激を受けながら自身の専門性を磨いていく、そのような時間を共有できればと思います。

中田 善規 教授 ●● (医療管理学・保健行政学)

医療・医学は社会との接点が非常に重要な応用科学です。経済学を医療に応用して、人々の健康増進に役立てる研究・教育を目指しています。

福田 吉治 教授 ●●● (産業保健学・行動科学・社会疫学)

公衆衛生の領域で働くためにはSPHで学び、MPHを取得する。日本もそんな世界標準の時代になりました。一緒に公衆衛生を学び、実践しましょう。

宮田 敏 教授 ● (生物統計学)

研究目的に沿って適切にデータを収集・解析し、その結果を解釈する一連の方法を勉強します。統計学の基本的な考え方と、実際のデータ解析の手法を一体として学びましょう。

小原 崇一郎 准教授 ●● (医療管理学、保健政策学、国際保健学)

多様性がうたわれながらまだまだ過渡期の現代日本でこそ公衆衛生的視点を有する人材こそ求められる存在かもしれません。ともに学び、臨床医学と公衆衛生との架け橋になることを目指しませんか？

金森 悟 准教授 ●● (産業保健学・社会疫学)

SPHには多くの産業保健スタッフが学びに来ています。一緒に企業や社会を動かす存在になっていきましょう！

鈴木 明日香 准教授 ● (生物統計学)

今後、医薬品産業で公衆衛生学専門職の活躍の場は広がります。若手、中堅、管理職のいずれでも、他の修士号取得者にもおすすめします。

齋藤 順子 講師 ●● (実装科学、国際保健、社会疫学)

さまざまな立場のステークホルダーの価値観に耳を傾けながら、研究と実践の架け橋を担っていきましょう。

津田 洋子 講師 ● (環境保健学・産業保健学)

身近な症例を疫学的視点から科学的根拠をもって実践に活用する。SPHで「働く人の健康」を衛る実践家を目指しませんか。

山田 卓也 講師 ●● (行動科学・疫学)

コミュニティの健康増進活動をしたくてリハビリ・介護の世界から公衆衛生の世界に飛び込みました。一緒に公衆衛生を学び、実践しませんか？

杉本 九実 助教 ●● (産業保健学・行動科学)

公衆衛生の現場では今、エビデンスに基づいた施策や活動の推進が求められています。一緒に「エビデンスのその先へ」前進していきましょう。



MPH課題研究・DrPH特殊研究

MPH capstone project / DrPH research practicum

課題研究・特殊研究

帝京SPHでの学びの集大成として、基本5領域の知識や技能、問題解決型アプローチでの思考と取組、コンピテンシーを高めた活動の報告として総合的な達成度が問われます。

高度な能力を備えた実務家を養成する専門職大学院。そこで授与するMPHとDrPHは科学論文の執筆だけで修了することはできないと考えています。もちろん、大学院生が身につけるべき能力として論文執筆能力を指導し、実際に多くの課題研究と特殊研究の成果が各学会や学術雑誌で報告されています。しかし、その報告で終わるのではなく、実務の中で発生している課題を科学的に検証した後、それをもとにいかにか問題を解決するかを大事にしています。そのための総合的な学びが本学の課題研究と特殊研究です。



課題研究報告会

指導体制

MPH 3段階の指導体制

1. 研究指導教員とアカデミック・アドバイザー

学生が希望するテーマに応じて1名の研究指導教員が担当し、日常的に課題研究を支援します。そして入学当初から、学生生活や履修、進路などを相談する身近な存在として、研究指導教員とは別の教員1名がアカデミック・アドバイザーを担当します。ひとりの学生に2名の教員がついてハードな帝京SPH在学中も支援していきます。

2. サブグループ指導

講座制をとらない、独立型の公衆衛生学研究科ならではの指導方法です。基本5分野からバランスよく教員が分けられ、サブグループを構成します。学生は研究指導教員と同じグループに入り、他の教員・学生と一緒に指導を受けます。多分野の領域の視点からの意見が飛び交うと同時に、他の学生の研究を知ってお互いの研究を高め合います。

3. 全体指導 中間報告・最終報告・審査

日々の研究指導とサブグループ指導の後、7月の中間報告、12月の最終報告が行われます。帝京SPH教員と学生が一同に介し、報告を行い、質疑応答を行います。課題研究報告書を提出して最終審査を受けます。

DrPH フィールドや職場も指導の場

1. 2名の指導教員

テーマに応じた主・副担当の2名の教員が研究指導にあたります。

2. ドクターズ・セミナー

進捗状況を報告するセミナーです。MPHのグループ指導同様に、5分野の教員が参加して多様な視点での意見交換を行います。MPHの学生にとっては、DrPHの学生の活動報告で現場の話を聞く機会にもなっています。

3. 計画審査、中間審査、学位審査

研究やプロジェクトの計画段階の審査と、研究成果報告の中間審査、そして最後に外部からの委員を含む審査委員による学位審査が行われます。

DrPHの学生は働きながら学ぶ人がほとんどで、実務の中で見出した問題を解決すべく、科学的分析能力と共に実務家としての高い専門能力を身につけています。専門職大学院での博士号授与者として、社会を動かす指導的な専門職（Change Agent）の育成を目指します。

MPH課題研究 修了生のテーマの一部をご紹介します。多様な課題に取り組んできました。

- ・ 高血圧オンライン診療による治療コンプライアンス向上に関する検討
- ・ 小学生水準のリーダビリティで書かれた医学情報はわかりやすいのか？—日本人成人を対象とした無作為化比較試験—
- ・ COVID-19パンデミック初年度のがん手術減少の地域間格差と二次医療圏の医療供給体制との関連
- ・ 血糖コントロール不良者の薬剤処方分析—健保データに基づく疾病管理・重症化予防に向けて—
- ・ ICU滞在日数とメンタルヘルス障害の新規発症：レセプトデータを使用した後ろ向きコホート研究
- ・ 健康への関心とCOVID-19の感染および重症化の関連～JASTIS2020-2022データを利用した縦断研究～
- ・ 地域フォーミュラ導入による降圧薬の臨床効果の予備的検証
- ・ 外国人技能実習生の労働環境とメンタルヘルスに関する質的調査
- ・ 男性同性愛者等におけるHIV有病関連因子の検討と有病予測モデルの試行
- ・ パナアツ共和国の思春期における栄養不良の二重負荷と生活習慣の関連についての探索

帝京SPHの1年

Annual schedule at Teikyo SPH

専門職学位課程(MPH)の1年

※1年コースの場合

a学期 4-6月	b学期 6-8月	S学期 夏季	C学期 9-11月	W学期 冬季	d学期 11-3月
授業・課題研究					
<ul style="list-style-type: none"> 入学式 オリエンテーション グループ指導 	<ul style="list-style-type: none"> グループ審査 計画報告会 	<ul style="list-style-type: none"> 実習 インターンシップ 国際サマースクール 	<ul style="list-style-type: none"> グループ指導・審査 中間報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ハーバード特別講義 実習 	<ul style="list-style-type: none"> 最終報告会 最終報告書提出

修了式

毎年4月の新年度の初日に、終日かけてのオリエンテーションと海外からのゲストによる講演会が開催され、帝京SPHの1年が始まります。

まずはアカデミック・アドバイザーとの面談で興味のあるテーマを伝え、4月下旬に課題研究指導教員が決まります。前期にあたるa・b学期に必修の講義を集中して受けながら、課題研究の研究計画をたてます。この過程でサブグループの審査を受け、多様な先生方や学生の意見も受けながら研究計画を改善します。

7月に計画審査会が行われた後、教員と学生全員の前で研究計画の進捗を報告します。主に夏季から9月ごろまでに調査を行い、課題研究をまとめていきます。後期にあたるc・d学期には経過報告をサブグループで行い、11~12月にサブグループで最終審査を受けたのち、12月の最終報告書提出まで指導が続きます。年明けにはハーバード特別講義に出席しながら、課題研究の修正や学会発表・投稿論文の準備、研究の成果を用いた活動計画などを進めていきます。研究成果は国内外の学会で発表することを推奨し、その後の論文執筆にもつなげています。

1年にわたる講義と実習、課題研究の実施・指導の合間に、キャリアセミナーや外部講師による各種セミナーなどが行われます。キャリアセミナーでは、MPH・DrPH取得者が活躍する領域の専門家のキャリア形成の話学びます。

課題研究のグループ指導・審査、報告会、ハーバード特別講義などについて、オリジナルサイト等（最終ページ参照）に様子を掲載しています。



新年度オリエンテーション



ハーバード特別講義



実習



日本公衆衛生学会



学位授与式

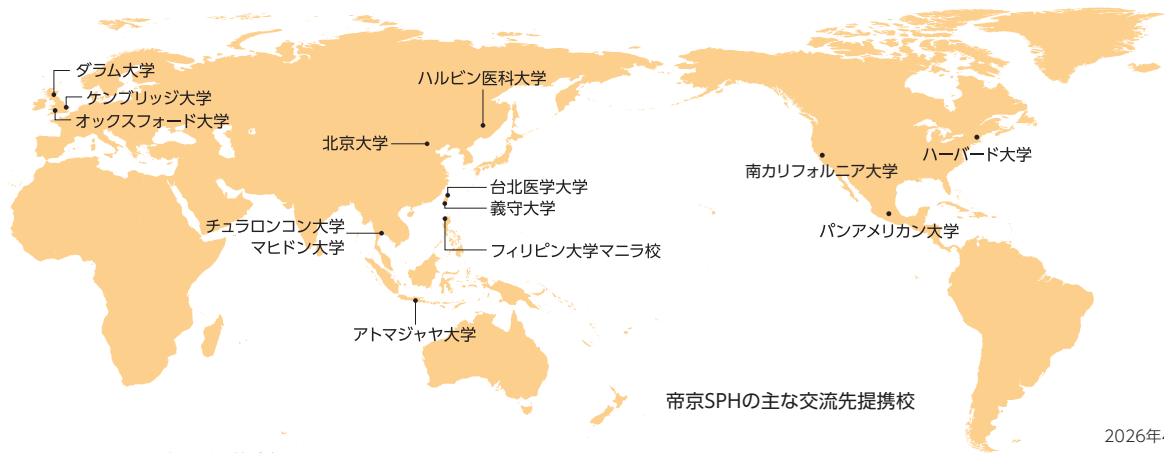
帝京SPHの国際展開

Global Network of Teikyo SPH

グローバル社会 生きぬく力×広がる見方

世界がもっと身近になる。帝京SPHの海外ネットワーク

帝京大学は大学の教育指針に「国際性」を掲げています。世界と日本の公衆衛生の課題に垣根が失われつつある現在、グローバル社会にあっても自ら働きかけるような力をもった専門職を育成するため、国際的な活動や海外の提携校との交流を行っています。国際社会で活躍する人づくり、国際的に評価が高い国内での活動を世界に発信できる人づくりを目指しています。



ハーバード特別講義

帝京SPHでは開学以来、毎年1月にハーバード特別講義を行っています。公衆衛生の基本5領域から1名ずつハーバード大学の教授を招いて行う集中講義で、学生にとっては履修科目の一部です。同じく学術提携校である英国のオックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ハラム大学からの教授が担当する年もあります。

担当教授たちは世界で活躍する各専門分野の第一人者。社会疫学のIchiro Kawachi教授、誰でも教科書を目にする疫学のKenneth Rothman教授、生物統計学のNan Laird教授やGarrett Fitzmaurice教授、英国コクランセンター理事でもあるMartin Burton教授など、著名な教授の集中講義を受けるため、日本でも学外からの科目等履修生を受け入れ、アジアの学術提携校からも参加者が集まってきました。現地の教室の雰囲気そのままに、小グループ学習あり、ディスカッションあり。世界の公衆衛生を高める力を養います。

過去のハーバード特別講義の先生方

- 疫学: Julie Buring, Kenneth Rothman, Martin Burton ¹⁾, Andrew Farmery ¹⁾, Effrossyni Gkrania-Klotsas ²⁾, Murray A. Mittleman
- 生物統計学: Ken Stanley, Nan Laird, Marcello Pagano, Garrett Fitzmaurice, David Wypij
- 保健政策学: Norman Daniels, Alastair Gray ¹⁾, David Hunter ³⁾
- 産業環境保健学: Douglas Dockery, Peter Baxter ²⁾, David Christiani, Stefanos Kales, Rose Goldman, Philippe Grandjean, Jaime Hart
- 社会行動科学: Ichiro Kawachi

数字付の5名以外は全てハーバード大学
1) オックスフォード大学
2) ケンブリッジ大学
3) ハラム大学

帝京-ハーバードシンポジウム

ハーバード大学との学術提携を1993年に結んでから、2~3年に一度、共同で国際シンポジウムを開催してきました。その時々最新の知見や問題意識を共に共有し、成果を広く社会に発信しています。

年	テーマ	開催地
第1回	1994 21世紀の職場・健康・医療	東京
第2回	1996 職場の環境と健康	ボストン
第3回	1998 医療と保健における評価:EBMを目指して	東京
第4回	2000 高齢化と健康、環境、労働、そして行動	ケンブリッジ(米)
第5回	2002 遺伝科学、政策、そして公衆衛生	ケンブリッジ(英)
第6回	2006 災害に備えその被害を最小に	ボストン
第7回	2009 The Healthy Hospital	東京
第8回	2012 医師の役割:過去・現在・未来	ハラム(英)
第9回	2014 公衆衛生の新しい大学院教育	ボストン
第10回	2016 過去をしのぐ未来へ: 社会を変える保健医療専門職の力	東京
第11回	2019 アジアと世界におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)のための持続可能な保健医療システム強化	バンコク
第12回	2023 日米における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの教訓	ボストン



第12回帝京-ハーバードシンポジウム(ボストン)の様子

帝京SPHの国際展開

Global Network of Teikyo SPH

国際サマースクール

夏学期中の7月には、国内外の学生を受け入れて英語で行う集中講義、国際サマースクールが開催されます。2017年に開始したこのサマースクールは、約10日間で2つのコース「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」を開講しています。2つとも講義だけではなく、クラス全体のディスカッションや小グループによる学習と発表を行います。講義中は、国際色豊かなクラスメートと共に過ごし、コミュニケーション能力、国際性、問題解決能力を高めます。日本を事例にして公衆衛生を学ぶため、病院、高齢者施設、保健所など実践の場への訪問も通じて理解を深めています。講義後は、学生どうしで地元の商店街や都内各所に出かけ、文化も含めて日本社会とその保健医療制度を学んでいます。



アジアと世界とつながる

ハーバード特別講義や国際サマースクールに参加するため、帝京SPHには世界から学生が集まります。北京大学、ハルビン医科大学、インドネシア大学、フィリピン大学マニラ校、チュラロンコン大学、マヒドン大学、台北医科大学などアジアの学生中心です。国際サマースクールは、米国南カリフォルニア大学の国際保健学修士課程の海外コースでもあり、同校から毎年多くの学生が参加します。

研究・実習フィールド 日本の地域を、そして世界を歩く

公衆衛生のフィールドはさまざまな領域に存在しています。国際機関や行政組織の働き、医療機関などでの臨床現場、製薬企業などの民間企業の仕事、地方自治体やNGOなどによる地域コミュニティ活動もあります。どの立場でも、帝京SPHの学生は、公衆衛生のフィールドに飛び出して活動し、研究につなげています。それは、国内の地域の取り組みでも、海外の世界のフィールドの活動でも同じことです。国内外この活動も研究も、MPHの課題研究やDrPHの特殊研究の成果として社会に役立てるように取り組んでいます。

各種実習・演習やインターンシップも実践力を養う良い機会です。フィールドで培った力と大学で得た知識・技能をあわせてMPH・DrPHの総合力を養っています。

学生が研究・実習を行った海外のフィールド

中国、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ラオス、パラグアイ、ウガンダ、ザンビア、マダガスカル、マラウイ

インターンシップ先

国際機関 (WHO、ILO、UNFPA)、厚生労働省、地方自治体、国際協力機構 (JICA)、国民健康保険中央会、東京都健康長寿医療センター研究所

一人のフィールドでの経験がみんなのものになる

一人で行う公衆衛生の活動は限られています。しかし、様々な国内外の場で同じような活動をしている仲間がいたらどうでしょう。帝京SPHでは、国内外のフィールドで公衆衛生活動や研究を行う在校生、修了生、教員が情報交換して学びあう機会と場があります。

「公衆衛生を、やる。」

日本でも世界でも。それが帝京SPH

専門職学位課程(MPH)の概要

学 位：公衆衛生学修士(専門職) Master of Public Health (MPH)

修業年限：2年コース(入学定員25名)

1年コース(入学定員5名)※1年コースは実務経験者を対象にしています。

博士後期課程(DrPH)の概要

学 位：博士(公衆衛生学) Doctor of Public Health(DrPH)

修業年限：3年

入学定員：6名

養成分野：疫学・生物統計学分野／産業環境保健学分野／保健政策・医療管理学分野(国際保健学含む)

受験資格：修士の学位または専門職学位を有する者

※ 経営学修士(MBA)や公共政策修士(MPP)等の非医療系出身者も含む。

MPH、DrPHともに、働きながら学ぶことができます。

また、事前の審査が必要ですが、長期履修制度により、同じ学費で長期間かけて修了する制度もあります。

帝京大学大学院 社会医学系専門医プログラム

MPHやDrPHを取得しながら社会医学系専門医の専門研修を行います。(大学院に入学せずにこのプログラムのみでの研修も可能です。)

応募資格：初期臨床研修修了者、修了予定者

帝京大学 産業保健高度専門職養成の大学院プログラム

産業保健に関する学び直しやキャリアアップのために、社会人対象の産業保健高度人材養成のための履修証明(学校教育法に基づく)プログラムがあります。

募集対象：主に産業保健の専門職 入学定員：約10名

帝京大学 地域保健事業実践力向上のための大学院プログラム

地域保健・地域行政で保健事業に関わる方を対象に、地域における保健事業や保健政策を実践するための高度な能力を備えた人材を養成することを目的としたものです。

募集対象：国や地方自治体等で保健事業に従事する行政職員、民間企業等において地域の保健事業に関わる者など 入学定員：約5名

帝京SPHの最新情報は
こちらから
ご覧いただけます。

オリジナルサイト <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/>

Facebook <https://www.facebook.com/teikyoSPH/>

X (旧Twitter) https://x.com/Teikyo_SPH

Instagram <https://www.instagram.com/teikyosph/?hl=ja>



オリジナルサイト



交通アクセス

最寄り駅から板橋キャンパスまでの所要時間

- JR埼京線「十条駅」より 徒歩約10分
- 都営三田線「板橋本町駅」より 徒歩約12分
- JR埼京線「板橋駅」・京浜東北線「王子駅」より「帝京大学病院」行きバスあり

主要駅から十条駅までの所要時間

- 池袋から JR埼京線で約5分
- 新宿から JR埼京線で約10分
- 渋谷から JR埼京線で約16分
- 品川・浜松町から JR山手線にて大崎(乗り換え)JR埼京線で約35分
- 八王子から JR中央線中央特快にて新宿(乗り換え)JR埼京線で約60分
- 大宮から JR埼京線快速で約21分
- 横浜から JR湘南新宿ラインにて池袋(乗り換え)JR埼京線で約50分
- 千葉から JR総武線にて新宿(乗り換え)JR埼京線で約90分

お問い合わせ先

帝京大学板橋キャンパス事務部 教務課大学院係
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL.03-3964-7051(直通) FAX.03-3964-8396
E-mail gakui@teikyo-u.ac.jp